

## 令和五年度卒業証書・修了証書・学位記授与式 式辞

本日、少しずつ暖かくなり春らしさを感じられる頃となりましたこの素晴らしき日に、ここ御坊市民文化会館におきまして、和歌山工業高等専門学校における令和五年度の卒業証書・修了証書・学位記授与式を挙行できますことは、本校にとりまして慶賀の至りでございます。

本校の栄えある卒業証書を授与された本科 148 名の卒業生の皆さん、修了証書を授与された専攻科 28 名の修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうでございます。教職員を代表して、心からお祝いいたします。保護者の皆様・ご家族・ご親族の皆様におかれましては、ちょうど5年前または7年前の入学式のことを思い出され、そのときと比べて大きく成長し立派になり、お喜びもひとしおのことと存じます。また、卒業生・修了生を今日まで慈しみ、温かく見守り育て上げられてこられました保護者等の御関係の皆様にご改めて敬意を表しますとともに、皆様のこれまでの本校に対するご理解・ご協力に対し深く感謝申し上げます。

さらに、御来賓の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、卒業式・修了式にご臨席を賜りまして厚く御礼申し上げますとともに、日々、本校に対し多大なるご支援・ご助力をいただいておりますことに重ねて心から感謝いたします。

和歌山高専は昭和 39 年に設立され、本年度で創立より 60 年目の説目を迎えることとなります。長きにわたる歴史の中で、本校を卒業・修了した多くの先輩方は、卒業後も、絶え間なく精進されています。地元和歌山県、また御坊市をはじめ、日本全国各地で活躍し大きな成果を挙げ、国内はもとより世界の科学技術の進展にも貢献され、企業等から高い評価がなされています。この輝かしい実績があるため、卒業・修了し新たな旅立ちをする皆さんには、産業界・学術界など多くの関係者から絶大な期待が寄せられています。

特に、皆さんはコロナ禍という未曾有の事態に直面し、在学中の約 3 年間は各種行事の中止やオンライン授業など従来の日常と異なり、活動が厳しく制約された状況を過ごしてきたという経験を有しています。当時は折角入学したのに登校できず、先生、同級生や友人とも会えずにつらく不安で、また面白みのない日々もあったことと思いますが、勉学を続け過酷な状況に見事勝利しました。この体験は本当に貴重です。

現在、ChatGPT 等の生成型 AI に代表されるように科学技術の進歩が著しく、社会の経済事情や国際情勢も大きく変化してきており、生活様式や価値観などがまさに激変しつつあります。近年のものづくりの現場では、高品質で安価な製品を作っても売れるとは限らない現象が多くあり、このことは、従来のものづくりの手法が通用しなくなっていることを意味します。高い技術力を有する高専卒業生に対する社会の要請も多様化しより高度なものとなってくるのは確実です。このような変化がますます進む中においては、今までと同じ発想・対応では成功しなくなる恐れがあります。今後、高専卒業生の技術者として必要な資質は、状況の変化に積極的に対応し、顧客のニーズを見極めた「付加価値のあるもの」をつくる力に、製造や設計過程、生産システムなど関係するすべての要素を意識し、会社の経営についても考え社会のニーズを新たに発掘しイノベーションを起こそうとする力、言うなれば「コトづくり力」を併せ持つことが必須です。

皆さんは、本校での学びやコロナ禍で培われた変化への対応力を活かし、就職先の企業や進学先の専攻科や大学などで、今までにない困難な課題に直面してもそれを克服し、時代を先導する立派な技術者・研究者に成長していくことと思います。常日頃から今ある技術・学問のさらに上を目指してください。

最後になりますが、皆さんが本日を迎えることができたのは、ご家族、先生、先輩、友人、後輩など多くの人達の心温まる支えがあったからです。これからは、そのことをいつでも自覚し、感謝する気持ちや人を思いやる心を持ちつづけてほしいと思います。そして、皆さんの今後の、夢と希望に満ち溢れ、栄光ある人生となりますよう祈念申し上げ、私の式辞の言葉といたします。

誠におめでとうございます。

令和六年三月十六日

和歌山工業高等専門学校長 井上 示恩